

★がん悪液質について★

Q1、悪液質の原因と病態を教えてください。

A1、悪液質とは「従来の栄養サポートで改善することは困難で進行性の機能障害をもたらす、著しい筋組織の減少を特徴とする複合的な代謝障害症候群」とされます。

原因は不明な部分も多いですが、腫瘍産生物質や炎症性サイトカインによる慢性の全身性炎症が主な原因とされます。病態としては、脂肪組織と骨格筋の分解促進、肝臓の代謝異常、食欲抑制系の活性化などにより、食欲不振や体重減少を生じます。主な症状の機序は右の表1のようになります。

【表1】悪液質の主な症状と発生機序

①体重減少

- 骨格筋代謝異常
 - ・炎症性サイトカイン、蛋白質分解誘導因子による筋萎縮
- 脂肪組織代謝異常
 - ・炎症性サイトカインや脂質動員因子などによる脂肪分解促進、非効率な消費

②食欲不振

- 末梢の消化管ホルモンの分泌不均衡
 - ・グレリン(食欲亢進、エネルギー消費減少)
 - ・レプチン(食欲抑制、エネルギー消費増大)
 - ・コレシストキニン(摂食抑制)
- 炎症性サイトカインが摂食中枢に作用
 - ・食欲亢進ニューロン抑制、食欲抑制系ニューロン活性化

Q2、悪液質の診断やステージ分類とはどのようなものですか？

A2、

がん悪液質のステージ分類



悪液質は、

- ① 代謝異常が軽度で明らかな症状を呈さない「前悪液質」
 - ② 診断基準を満たした場合の「悪液質」
 - ③ 高度代謝異常(異化亢進)により栄養サポートを行っても栄養状態の改善の余地がない「不応性(不可逆的)悪液質」の3つの病期にステージ分類することが提唱されています。
- がん種やステージによって介入が必要な時期は異なりますが、前悪液質の段階からの早期介入が推奨されています。

Q3、治療はどのように行われるのでしょうか？

A3、

悪液質が発症した場合は、まずは食欲不振を引き起こす原因に対する治療や食欲不振以外の症状緩和を実施します。

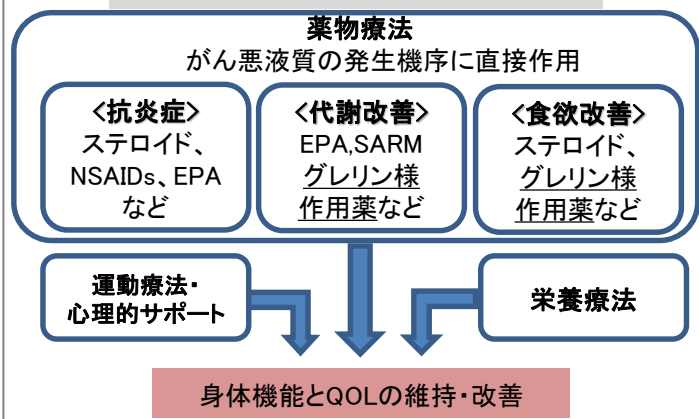
さらに食欲不振に対する薬物療法に加え集学的なアプローチを行います。(図1)

前悪液質の主症状である食欲不振に対する薬物療法に用いられる主な薬剤を表2にまとめます。治療目標や予後、全身状態を評価し、利点と欠点を考慮して選択します。

【表2】食欲不振の症状改善を目的に用いられる主な薬剤

分類	作用	主な薬品名	備考
ステロイド	骨格筋同化作用 食欲亢進作用、抗炎症作用	デカドロン	長期使用による副作用に注意
NSAIDs	抗炎症作用	ロキソプロフェン	消化性潰瘍など副作用に注意
グレリン分泌促進作用	成長ホルモン分泌促進 摂食促進作用	六君子湯	グレリンは主として胃内分泌細胞で産生される成長ホルモン分泌促進物質
グレリン様作用薬	消化管運動調節作用 抗炎症作用	※エドルミズ	非小細胞肺癌、胃癌、膵がん、大腸がんにおけるがん悪液質 ※発売準備中

【図1】がん悪液質に対する集学的アプローチ



※参考:
 ・「がん悪液質ハンドブック」
 日本がんサポートケア学会
 ・「終末期がん患者の輸液療法ガイドライン」
 日本緩和医療学会
 ・「専門家をめざす人のための緩和医療学」
 日本緩和医療学会
 ・「エドルミズ錠製品概要資料」小野薬品
 (薬剤部 荻尾)